

天然資源の開発利用に関する日米会議 水産増殖部会
第5回会議 共同声明

天然資源の開発利用に関する日米会議の水産増殖部会第5回合同会議は、1976年6月3日京都国際会議場において開催された。会議は日本側部会長東北大学水産研究所長 佐藤重勝博士によって開会し、同部会長は第一段階として過去5年間のにおける本部会活動を評価するとともに第二段階に入った今後5年間の展望を述べた。

米国側部会長 William N. Shaw 氏はこれまでの本部会活動の業績に対し賞賛の意を表するとともに、改めて本部会活動の目的を以下のごとく強調した。即ち本部会の目的は水産増殖に用いる情報の交換、研究者の交流、共同研究計画の推進、討論会を通じての水産増殖に関する国際的な情報交換の発展、海産および淡水産水産物の増大等である。

両国部会長の挨拶の後、佐藤重勝博士および William N. Shaw 氏がこの会議の議長に、魁頭鈞博士および Daniel A. Hunt 氏が書記にそれぞれ選出された。

干前中の討議は議長 William N. Shaw 氏によって進行し、昨年度の活動を総括した。William N. Shaw 氏は1975年デラウェアのリーウエスにて開催した国際栄養学会について報告し、その議事録は約2ヶ月以内に発行されると述べた。小金沢昭光氏は本部会の1975年度活動計画の一環として行なわれた交換研究員として米国における研究活動について報告した。John B. Glude 氏は米国の国際水産増殖学会にて作製した約400名の水産増殖分野の専門家リストを本会議で紹介した。今井丈夫 東北大学名誉教授監修の「浅海完全養殖」の英訳版は現在印刷中である。

干後の討議は議長 佐藤重勝博士によって、今後5年間の新しい活動について討議した。

佐藤重勝博士は最近5年間の日本における水産増養殖の進歩を評価する報告も呈出した。(添付資料参照) 引きつづき William N. Shaw 氏は米国における海洋開発計画および国内水産業振興計画における一連の水産増養殖事業についてスライドを用いて詳細に報告した。

この後本部合同会議は今後の活動として考えられる恒常的な研究者の交流, 水産増養殖に関する研究報告の集約, 本部会の活動として可能性のある出版物の発行, 資源培養型漁業の確立とこのような水産増養殖事業における国際的な計画についての共同作業等の諸問題について論議を行なった。

1977年の合同会議については, 米国西海岸および南アラスカの水産増養殖施設の視察を含めた米国西海岸での会議開催, あるいは淡水増養殖に関する会議開催が提案された。また, 浄化システムに関する問題, 遺伝に関する討論会, 商業的生産適種の解析に関する討論会等の提案もなされたが, 第6回本部合同会議は1977年8月, カリフォルニア州サンタバーバラで行なわれる第9回国際海藻学会の時期に行ない合同会議の詳細な課題は今後両国部会長が充分に意見を調整した後決定するにととした。

1976年 6月 3日
於: 京都国際会議場

佐藤重勝
日本側部会長
佐藤重勝

William N. Shaw
米国側部会長
William N. Shaw